

他科の先生に  
知って欲しい

## 豆知識・・・透析医編④

## 浮腫は心腎肝甲と、薬剤と

独立行政法人国立病院機構岡山医療センター  
副統括診療部長 (腎臓内科・リウマチ科)

太田 康介



今回は、一般診療とむすびつくテーマとして浮腫をとりあげました。筆者は長年総合病院に勤務し、専門性から浮腫の患者さんを診察する機会が多く、透析診療とは少し違うのですが今回テーマに選びました。

腎疾患の浮腫とえば、大学の臨床講義で当時の教授が「ネフローゼ症候群の身体所見は、信楽焼のたぬきを思い出してもらったらいい」と話していたことが印象的でした。どこが似ているのかというと、目元のむくみ、下肢の浮腫、腹満(腹水)、立派な陰嚢水腫が特徴とのことでした。卒後、いつ信楽焼のたぬきさんに出会えるかとわくわくしていましたが、陰嚢が地面につくほどの浮腫はいまだにお目にかかれません(写真右)。

筆者自身は医学生や看護学生に、浮腫を見た場合には全身性か局所性かまず区別することを強調しています。全身性では心臓、肝臓、腎臓、甲状腺の疾患や栄養障害を想起する事、局所性では中枢側に疾患がないかどうか確認する事、などをお話します。これ以外にリンパ性浮腫との鑑別がありますが、判断しにくい場合があります。

筆者自身は医学生や看護学生に、浮腫を見た場合には全身性か局所性かまず区別することを強調しています。全身性では心臓、肝臓、腎臓、甲状腺の疾患や栄養障害を想起する事、局所性では中枢側に疾患がないかどうか確認する事、などをお話します。これ以外にリンパ性浮腫との鑑別がありますが、判断しにくい場合があります。

浮腫が発生する機序は、毛細血管の静水圧のバランスの変化が重要で心性浮腫の原因になります。もうひとつは膠質浸透圧の低下(血清アルブミンでおよそ3.0g/dL以下)です。さらに、これらの浮腫の背景に塩分摂取過多があることが多く、注意が必要です。

ところで、全く異なる浮腫としては、特発性浮腫があります。実際は少ないのですが、認知度は高い疾患です。20～40歳程度の女性にみられる下肢主体の主に間欠的な浮腫で、体重の日内差が1～2kg以上あり、原因が明らかでなく、月経周期と無関係であることが特徴的です。ただし、実際は不定愁訴を伴う場合、薬剤が関与する(甘草、エストロゲン製剤、ループ利尿薬)場合など、診断・治療が容易でない例が少なくありません。自験例では摂食障害を伴い、軽度の腎性腎不全へ移行した利尿剤内服例を以前の施設で経験しました。利尿剤は不適當であったのですが、そもそも浮腫に対する認識が異なっていて(足背皮静脈が明瞭に視認できなければ「むくんでいる」と見做していた)、利尿剤中止に同意頂くまで長期間必要でした。

薬剤性浮腫も忘れてはなりません。中でも時々経験されるのはカルシウム拮抗剤などによる浮腫です。これは薬効である血管拡張と関連しています。余談ですが研修医と話をしていると、カルシウム拮抗薬の副作用として歯茎の腫脹、浮腫、頰脈があまり意識されていない印象を受け、我々指導医の力不足を感じます。

全身性の浮腫の治療は多角的なアプローチが必要です。重要なのは、薬剤で治療すべきか、ど



のタイミングで行うかの判断です。浮腫を呈する場合は循環血漿量増加を伴う場合が多く（心性浮腫など）、循環血漿量を薬剤で急激に減少させることで循環動態を却って悪化させる可能性があります。これらに注意しながら少量からループ利尿薬を開始し、他の薬剤を加えてゆきます。必要があれば栄養指導など生活指導を行う事は言うまでもありません。

一方、内科領域にとどまらないのが、局所性（単一の四肢、顔面、体幹など）の浮腫です。実臨床ではよく遭遇します。大まかに血管性、静脈性、リンパ性、炎症性に分類されます。

血管性はアレルギー性としてクインケ浮腫（後天性の血管性浮腫）や遺伝性血管性浮腫（先天性のC1-INH産生以上や機能異常：頻度は低い）、薬剤性があげられます。薬剤性は、前述の降圧剤（カルシウム拮抗剤、ACE阻害剤、アンギオテンシンⅡ受容体拮抗剤）、NSAIDs、造影剤、経口避妊薬、DPP-4阻害剤など多岐にわたります。見落とされることもまれではありません。

静脈性は、上大静脈症候群（肺がんなど片側上肢の浮腫を来す）、深部静脈血栓症（原因：術後、癌、凝固異常、経口避妊剤、中心静脈カテーテル）などです。しばしば重大な疾患が背景にあることや肺塞栓症の原因になるため、特に片側性の下肢浮腫で鑑別すべき疾患です。

リンパ性は、皮膚のつっぱり感や硬化が特徴です。がんのリンパ節郭清や放射線治療後、その他の原因があり、治療が対照的に終始することも多いです。

炎症性は蜂窩織炎や血栓性静脈炎などがあり、患者の受診起点となることが多く診断も比較的容易です。また関節リウマチなどの関節炎の波及にて指や手全体の腫脹を呈する場合があります。

以上浮腫について全身性、局所性の順で記載しました。豆知識に該当するかどうかかわかりませんが、先生方の日常に些少でもお役に立てば幸いです。